

## 第3回大月市立大月短期大学附属高等学校基本問題審議会議事録

日時 平成21年9月3日(木)午後1時55分～午後4時13分  
会場 大月市民会館 4階 会議室  
出席者 委員 15名  
平井会長 小原副会長 田辺委員 古見委員 小俣(芳)委員 佐野委員 市川委員  
松葉委員 小林委員 渡邊委員 斧田委員 山口委員 山田委員 小俣(二)委員  
井上委員  
事務局 6名  
小笠原教育長 坂本次長 小俣校長 坂本事務局長 雨宮主幹 金畑主任

### 次 第

- 1 開 会
- 2 会長あいさつ
- 3 議 事

#### ア) 前回会議録の承認

原案のとおり承認された。

#### イ) 諮問内容の審議について

議 長 諮問内容の検討に入りたいと思いますが、その前に資料及び地区対話について事務局から説明をお願いします。

事務局 地区対話市民意見の概要について説明(別紙資料)。

議 長 ありがとうございます。私の方で補足を致します。お手元の「地区対話」の資料の1ページから4ページまでの財政問題等について市長から説明していただきました。5ページから終わりまでの大月高校に関する事を教育長さんよりご説明がありました。その後、質疑に入ったわけですが、ほとんどの会場で市長の方から指名して意見をを出してもらったわけです。

大多数の意見が、心情的には存続させたいと言う事ですが、存続させるにはという具体的に突込んだ所までの質疑はありませんでした。一応そんな所が対話集会の中身ではなかったのかと思います。

これについて何かご質問等ございますか。

委 員 大月高校が廃止される。或いは存続させると言う意見が半々というか、存続はしてもらいたいけれども存続が無理なら廃止もやむを得ないと言うような感じで取れるんですが、廃止にする為の具体的な理由。たとえば、少子化と言う事も具体的にありますが、中学生も段階的に減って行くわけですから、存続させるのは何時まで存続させるのかと言う基本的な考え方とかの資料がないわけですね。自分が言いたいのは、要は廃止にする為には何年度までは存続しますとか、或いは資料を見ますと財政的にもう一般財源か

ら大月高校を存続させるための資金は、病院だとか或いは小学校・中学校の耐震化の費用に使うために大月高校を存続させる費用が無いんだと言うような金銭的に具体的な資料を提示して行かないと、ただこの資料を見ても抽象的すぎて廃止するにしてもこういう事があるから廃止にしますと言う具体案を出して行かないと。

議長 発言中いいですか。ご意見として今出されているんですか。そうじゃなくてこれに対してご質問がありますかと言う事なんですね。だからそういう具体案が出ていなかったという意見ですか。そう言う中身の問題については審議会の中でやって行かなければならないと思います。

委員 一応内容につきましては、抽象的な意見しか出ていないと言う事で、意見を聞かれた方も困っているなど。意見を聞かれた方も存続させる方が良いのか、廃止にした方が良いのかという決定的な内容が伝わってこないと言う事がありましたんで。一応この資料について、これで良いかどうかと言えば、内容はこれで分かりましたとしか言いようがないんです。これに対する資料を基に存続か存続じゃあないかと言う事を決めて行くには、財政的な事となると6千万円の赤字という事ですけども、大月高校の財務諸表、貸借対照表、或いは損益決算書等もここに提示していただいて、この6千万円の赤字が今後解消できるのかと言うような事までここで検証してみる必要があるんじゃないかなと言う事で、具体的に皆さんが廃止にしようと言った時にどの資料を基に、どういう意見で廃止に至ったと言う事が出てこないと自分も不安だなと言う事を思いまして意見として出したわけです。

議長 私は、何かご質問がありますかと言ったわけで、意見をもらうために発言したわけはありません。そういうご意見は諮問の内容のところをお願いしたいと思います。他に何かご質問ございますか。

それでは今ひとつ、皆さん方に資料が配られていると思いますが、それについて何かご質問・ご意見、一緒に承りたいと思います。

事務局 前回の審議会の時にご質問をいただいた、いわゆる学級を減らして富浜中学校の統合の後に移した場合どうなるのか。その資料を提示してもらいたいと言う宿題をいただいておりますので、それについて簡単にご説明をさせていただきたいと思います。

議長 今日お配りになった資料の定員80人で富浜中学校へ移転した場合と言う事ですね。それ以外のあらかじめ配られたものがあるんですが、特にそれについてご質問等がありますか。

委員 平成13年6月21日に大月短期大学附属高等学校の教育懇話会と言うのが立ち上がって提言として出てきているわけですけど、これを見ますと2ページの真ん中辺に県東部地域に全日制単位高校を設置する方針を決めていると言う事ですが、これは都留高校の事だと思うんです。この話し合いが始まった頃には都留高校は全日制単位制の高校になるんだと言う事で話し合われた内容の資料で、参考程度にはなるのかなという形で捉えたわけです。

だけど結局6ページを見ますと伝統ある大月高校が充実する事をお願いすると言う事

で結んであるんですが、いわゆる存続して欲しいと言うような事の提言が出ているわけですけど、廃止と言うような資料は全然出てこないと言う事の中で、廃止にするかどうかと言う事が今回の諮問内容だと思いますが、一応経過としてはこういう経過なんだなあとと言う事が分かりました。

あと大月市の6次総合計画の中で11ページの「生きる力を育む教育環境の充実したまちをつくる」と言う事で、項目が8ありまして、下から2つ目の項目で「大月短期大学附属高等学校で充実した高校生活を送ることが出来る」と言う事で、その右側に行きますと「教育課程および教育内容の充実」「進路指導の充実」「施設設備の計画的な整備」「教職員の人事交流の促進および研修の充実」と言う事です。この計画で言いますと廃校と言う事はうたわれていなくて、大月高校を存続させようと言うような内容。また、その下に「多くの入学志願者が大月短期大学を目指している」と言う事で、「将来構想の検討」「広報活動および進路指導体制の強化」「短期大学における市民公開講座の充実」「リカレント教育の推進」「施設の計画的な整備」その辺の所もうたってあるわけですね。

それから13ページの所ですが、「堅実な行政経営を行う」と言う中で、最初の所の「公共施設の集結と再配置を行う」と言う事で2つありまして、その一つが「公共施設・サービスの見直しが進められている」と言う事で右側に4つありまして、上から2つ目、「市立短期大学附属高等学校の管理運営の充実」と言う事で、大月高校を廃止しようと言う事はどこを見ても全然載って来ていない。今までの資料を見ますと財政難、或いは少子化、或いは耐震化等の影響で廃止と言うのはやむを得ないんじゃないかという資料がすごく出ているのが現状ですが、いただいた資料を見ますと廃止と言う事業計画だとか総合計画とかの資料というのは1つも載って来ていないのが現状なんです。その辺の所が自分としてはすごく悩んで、どういう風にしたら良いのかと言う事を思っているわけなんです。貰った資料としては廃止と言う内容の事が1つも載って来ていないという事が感じられると言う事で、よろしいでしょうかと言う事ですけど、一応は存続、或いは廃止と言う議論になる場合については、また意見というか考えを述べたいなと思っております。

議長 資料についてご意見をいただいたという事でよろしいですか。

今のお話の中でその後、18年にもう一度審議会をやっているんですね。その時の資料は出ていないんですが、その時も存続の問題は出ているんですが、存続の問題よりも活性化の話の方が中心になったんですね。

存続の問題は今回初めて出てきたんだと思うんです。議題としてはその前の数回の時にも出てきていたんだと思うんですが、中身は存続の問題については取り上げられなくて活性化の問題だけという風に私は判断しているんです。

委員 今、会長さんが言う内容につきましては一番最初に貰った報告の中の資料の「大月短期大学附属高等学校の存続の是非について」という資料の中の2枚目の資料の方に最終に行われた会議の事も載っております。

議長 第1回審議会で「是非についての諮問事項について」の4項目について一通りの説明

があったわけですが、特に4番目の市財政事情の急変からこの問題が出てきたんだと思います。いずれにしても少子化の問題、施設設備の問題、短大の分離の問題。この辺から解決していかなければならないと言う事で、この審議会を開く事になったと思います。

委員 先ほどの意見ですが、総合計画の中でこれは概要版なんです。この他に計画の厚い本があるわけですが、その中でどういう位置づけをしているかと言う事を話して、説明した方が分かりやすいと思うんです。その中で「今後審議会等に於いて協議していただく」というような項目が確かあったと思うんです。

事務局 実は概要版は、ポイントだけ取り上げて記載してあります。本来の総合計画はこの厚いものがございます。この中の基本計画の中に「大月短期大学附属高等学校基本問題審議会の答申を踏まえ、今後の方策について色々な見直しを行います。」こういう記述があるわけがございます。指標、考え方の中では「少子化時代における地域の高等学校の在り方を抜本的に見直しましょう」と言う記述があるわけがございます。現状の少子化と財政事情の変化に基づいて改めてこの計画の骨子を生かすために諮問委員会を開いていただいて広く皆様のご意見をいただくと言うような計画です。

委員 今言う内容ですので資料を見させていただきます。

委員 審議会の色々な答申なんかを見させていただきました。一般的には行政が審議会に諮問して答申を受ける場合には、全部実行できる事は無いにしても何らかの実行をして新しい次の所へ向かって行くと言うのが一般的な行政のシステムだと思うんですが、私が答申を見たところ大月市の場合には、答申に沿って何かをしたと言うのがちょっと見られないと言う感じを受けました。私たちが今度、答申をした時にどう言う所を取ってどう言うようにするのか分かりませんが、今までの過程を見るとどうも今まで出た答申について何かをやってきたと言う事が見られないと言う答申の内容を読まさせていただいた感想としてそういう感じがしました。

議長 審議会を何回かこれからやって行くわけですが、1回目、2回目として今まで資料が出てきて、過去からの流れというのがある程度資料でもお分かりいただけたと思います。

今回の審議会は市長も言っているように「非常に重たい審議会だよ」と「重責だよ」と言うような「存続の是か否か」なんですね。今まで活性化についてはこうゆう方法がある、ああゆう方法があるとやっているんですが、なかなかそれが実現しなかった。存続の問題は残すか廃校にするか。いずれにしても、どちらになるかは最終的には行政で考える事で、この審議会としてその為のどう言う意見を出してもらえるか、存続する為にはこうゆう意見があるというようなシミュレーション的な意見を出してもらって、それをまとめて答申したらどうでしょうか。

委員 今会長さんがおっしゃいましたように自分もそう思っていますが、大月高校を廃止するのか続けるのか、是か否ですからね。前回私が言いましたけれど是の場合はどうやったら続けられるか、具体的な提案を皆で出し合おう。それから否の場合はいつから廃止するのか。或いはどう理由で、少子化もあるだろうし耐震化もあるだろうけど、廃止の場合はこうゆう理由があるから廃止にした方がいい。或いは大月市内の1年生の生

徒が現在は 58 名しかいない。だんだんこれが減ってくると言うことになる、県の教育委員会でも受入体制があるんです。わざわざ市の方で県立より高い授業料を払って行かなくも、皆県立の生徒になるんです。それが嫌なら私立の高校へどうぞという形の中で、廃止にするならこういう理由があるから廃止にしますよと言うような意見というか、内容をここで作る必要があると思うんですよね。前回は自分はそのつもりで言ったわけですけど、今もその辺の所は強く思っています。

委員 過去に振り返らないでほしい。今後どうするかと言うことを議論する場であるから、この資料がああだこうだと言うことよりか、今言っていることが本当に正確なんです。 「是か否か」これを今から議論しなければならないから、過去に振り返ることは置いてこの「是か否か」と言うことを議論していただければありがたいと思います。

委員 結局 2 年前にもやっているわけですよ。その時も廃校か廃校じゃあないかという問題が出てきている。しかし皆さん逃げるんです。結局そこで廃校だと言うことに手を挙げること事態がしたくないという心情が皆さんの中にあるんです。ですからこの前私が申し上げたように、今回は非常に重みを持つと思って私自身も来ています。いまさら過去のデータをついて見ても仕方がない事で、実際にこれをもっと行政が細かい数字を出したとしても我々には分からない部分も実際あるんです。ここで出ている資料で私は十分だと思います。行政は嘘を言っているわけではないんですから。だからそれを踏まえた上でこの会議の中で 1 回資料を出さなければいけない。それをまた市民に渡さなければいけないとなると、これはまた永遠と何年もかかってしまう。今決めたとしても何年かかかるわけですからね。廃校だから来年から廃校というわけではないんですね。廃校にもしするとするならば何年後にするとすることはその後を決めることであって、ここで今我々が何年後に廃校にするとかそういうことを決める事では私はないような気がします。廃校の方針で行くべきか行くべきじゃあないかという方向を決めていかなければならない委員会じゃあないかと私は思っています。

議長 中身にちょっと入ってきたわけですが、最初にお話がありましたように、参考資料の説明をお願いします。

事務局 富中跡地に定員 80 名、1 学年 2 クラスで移転した場合の説明。(別紙資料)

議長 今、高校を分離して富中跡地に移転した場合にはこういう費用がかかります。なお、定員 80 名、2 学級でと言うことで事務局で試算したようです。いずれにしても不足 4 千万なにがしが必要と同時に移転するための工事費 1 億数千万。ちょっとお伺いします富中は耐震化は終わっているんですね。

事務局 基準後の建物ですので耐震基準はクリアーしております。

議長 すると耐震化の費用は一切いらぬと言う事のように。これはもし存続して分離した場合にはこういう方法も考えられる一案だと思います。前に宿題として出された問題を事務局が検討してこうした結果が出ているわけですが、これもまた参考の一つだと思います。

それでは存続についてと言うことで、何かご意見ございませんか。一応資料として少

子化の問題、高校・短大の分離の問題、要するに高校として存続するには極めて条件の悪い状態の資料が色々出ているわけですが、存続させるにはこれらをどのようにクリアして行くかという具体的な中身を提案していかなければならないと思います。結局その見通しが無いとするならばやむを得ないと言う事になると思うんですが、それならば具体的にどのような手順で行こうという中身の問題になると思うんですが、何でもよろしいので、何かご意見をお願いしたいと思います。

委員 私も全てが廃校にしたいと言っているわけではないんです。存続するために分離した場合ですね、これだけのお金1億8千万という事ですが、色々なものも付けられたい2億円だと思うんですけど、それに色々なものを付随して分離してやった場合、将来的にやって行けると言うことは見通しがあるのかなのか。一時は分離してやったけど結局何年後にまたこの審議会の中で廃校問題が出てくるということになったなら何の意味もないなと言うことで、その辺の根拠が示されれば我々も判断しやすいのかなと言う感じもするんですが、難しいですね。

委員 今、少子化対策を県も一生懸命やっていますよね、今すごい少子化にはなっていますが、その対策の結果とかですね、今、町を見ると子どもを3人4人連れてくる親御さんも増えてきていますよね。その辺の所の少子化が今の少子化のまま行くのか、もうちょっと上がってくるのかという事です。たまたま戦後のベビーブームの孫ぐらいの年代になっているので、そのお子さんがまた増えているんですよ。だから変動が激しすぎて予想がつかないというのがあって、その辺の少子化の予測の流れがどうなるかというのも存続にするのかしないかと言う時に大きい問題だなと思います。

委員 全国的には少子化が少し上向きになってきているというのはありますね。ただ、こと大月市に関しては少子化は進んでいて改善はされていないというのが実態だと思います。私は受験生をもつ母親ですので、来年の3月には子どもがどこかの高校を受検するんですが、今かなり保護者の間でも大月高校の存続の問題に関しては大きな話題になっている事は確かです。ただ、色々なものが見えませんが大月高校を受検するのか、しないとするばどこを受検するのかと言うことで、この8月は各県立高校、大月高校を含めてですがオープンスクールという形で学校を開放して学校説明会がありました。上野原高校に関しては校長先生のお話では今年は1クラス増やすと言うことのように、それから桂高校にしても都留高校にしてもこの少子化をにらんで統廃合を含めてどのように学校造りをしていくのか、その話もシビアにされているお話もありました。

実際、大月高校を受検するんだという子どもたちがどの位いるのかと言う事を校長先生もいらっしゃるし、中学校の校長先生もいらっしゃるのでその辺の事を具体的にお話しただけであれば一番いいのではと思います。保護者の間にも子どもたちの間にもその不安が広がっているのは確かです。

それから、もう一つ、先ほど色々な審議会を経て今日の審議会があると言うことで、これからのことを考えましょうと言うお話で、行政は一体何をしてきたのかと言うご批判もあったと思いますけれど、私はこの3年間大月高校の評議員をやらせていただいて

おりまして、先生方のご努力は涙ぐましいものがあったと言うことを一つ付け加えさせていたきたいんです。子どもたちにいかに大月高校で学んでいただけるかと言うことで、かなり時間を割いて色々な学校に出向かれて、かなり大きな努力をされてきておりました。子どもたちの質を上げるために、大月高校の子どもたちはと言われぬように、質を上げるために私たちの意見も真摯に耳を傾けて下さいまして、子どもたちの質をいかに高くするかというご努力をされてきたことは確かなんです。その結果として、今までにないくらい公立の大学ですとか短期大学ですとか私立も含めてですが、進学率も伸びてきて就職も先生方が事業所に出向いて行って開拓されてきたという実態を見ておりますので、行政としてどういう努力をしてきたかという事も含めて、色々ご意見はあると思いますけれど現場の先生方は本当に良く努力されてきたと私はそういう評価をしております。ただ、子どもたちがこれほど生まれぬわけですから本当にこれは人口問題ですから。ここの審議会で話し合いされている以前の問題として、いかに人口を増やすかと言う話をした方が色々な意味でいいのかなという思いもするわけです。ただ、大月高校の存続に関しては実態として色々な不安が広まっている。受験生をもつ保護者の多くは不安を抱えている。また、子どもたちも不安を抱えている。これからの大月高校はどうなっていくかについては多くの市民の目が向けられていると言うことは事実です。でも子どもの数は一向に増える傾向がない。そこがちょっと見通しがもてないところでですね。

はっきり申し上げまして県立高校でも定員割れしているわけですから。私はびっくりしました。私の時代には無かったことですから。高校がうちに来てください、うちに来てくださいなんて。行かせていただきますという時代でしたので驚きました。熱中症にならないようにお茶まで出していただきました。県立高校でもそういう努力をされている事を目の当たりにしてちょっと少し考え方を変えなければなあと思いました。

是か否かと言う論議で白黒はっきりさせるのはちょっと難しいのでその辺は控えさせていただきます。そういうことを考えとさせていただきます。

議 長 今、少子化問題が出ましたけれど、県立高校でも校長さんや教頭さんが毎日のように中学校を廻って是非お願いしたいと、県立高校でさえも廻っています。勿論大月高校でも廻っていると思います。

大月高校では県立高校にはない立門指導として、毎朝出てくる生徒の服装がきちっとしているか指導しているんです。県立高校ではそんなことは一切やっていないわけなんです。そのくらい熱心に大月高校ではやってくれているんです。そういう意味で生徒の質もかなり良くなってきていると思いますけれど、それでも少子化には勝てないと思います。

委 員 私も今、今まで貰った資料を全部見させていただきまして思うには、大月高校はここで廃止ですよと県の教育委員会にはっきり言った方が良いという結論に今なっているわけです。というのは少子化の問題、ゆくゆくは減っていくことは確かなんです。それと耐震化の施設の関係で、中学校も勿論やっていない所はやらなければならないと言うこ

とで費用がかかりすぎる事と、これは大月市の税収ですけれど東電の関係で償却が1億何千万と毎年減って行く中で、市の財政も緊迫してくると言う事を考えれば、ここで一旦大月高校を廃止にして、先ほど意見がありましたけれど何年から廃止にする云々はともかくとして、私の意見としてはこの資料を貰って見る限りでは廃止にした方が良いという結論です。その理由としては少子化、耐震化、市の財政、それからもう一つが大月市の子どもたちが県立へ行けるよう県の教育委員会も枠を広げてくれると言う事で、大月市の子どもたちが県立の高校へ進学できるという事の4つで自分は廃止にした方がいいという結論になりました。

議長 県立高校の受け皿の問題があるわけですが、この辺はどうでしょうか。

事務局 はっきりしたことは私の口からは申し上げられないんですが、県の教育委員会も非常に口が堅くて情報をくれません。ただ、色々な方面から入ってくる情報によりますと、いわゆる県の教育委員会は高等学校教育に対する責任がある。その視点からから考えると、たとえば大月高校が無くなった場合には、東部地域で吸い上げるだけの定員はいずれかの県立高校で受け皿をつくるはずだと言うことをおっしゃっております。

一番心配なのはいわゆる成績の問題が気になっているわけですが、それについてもやはり高校全入の時代の中でその辺も県の教育委員会は考慮するはずだと。こういう考え方は間接的には伺っております。実は前にもお話ししたと思いますが県の教育委員会の新しい高校の整備構想そのものがかなり活発に動いております、ここで10月には地域に、大月高校の場合は大月市にくると思うんですけど、どういう考え方を大月市は持っているのかと言うことをパブリックコメントなんかでおっしゃっているようです。そういった意向調査があるようです。そういう中で考えていくと実は午前中事務局で相談しまして審議会の経過につきましてある程度県教委に少し動き方を入れておいた方が県教委からも情報を頂けるのかなというような考えもございまして、今前向きにそんな考えを持っております。それで県教委の方から情報が得られれば次回の審議会には私どもの方から委員の皆さんに情報提供していきたいなとこんな風に考えています。

ただ反面、大月高校が大月市の意向としてこのまま続けるという事になればこの前もお話ししたとおり、県立高校で定員の調整を行います。というお考えがあると言うことは確かです。

議長 他にどうでしょうか。具体的に答申する中身を作らなければならないんですが、皆さん方の意見をまとめて答申したいと思えます。

委員 現在の大月短期大学附属高等学校の財務諸表を皆で検討したいと言うことで、皆に見て貰うために、一応抽象的に大まかに計画的に6千万円の赤字というのが出ていますけれど、財務諸表がもしあったら提示してもらいたいんです。それも理由の一つになるうかと思うんです。ここまで検討した事の中で理由付けにもなると思うんです。

事務局 実は皆さんにご理解いただけるかどうか、議員さんお二人は良く理解されていると思うんですが、大月市の一般会計の中で処理されています。従って費目で選びまして収支の見込みがどうだとか収支決算がこうだとかと言うことはご呈示できますけれど、それ

以外のいわゆる民間企業の視点からなった財務諸表を提示するのはちょっと難しいと思います。

委員 よく分かりました。従ってその辺の分かるところまでの資料は提示して貰って、皆で検討する必要があると思います。是非よろしく願いいたします。

事務局 次の審議会までにその辺の資料も揃えてご提示させていただきたいと思います。

委員 今、大月高校が閉校された時の県立高校の受け入れという事が出たんですが、100%受け入れてくれるかどうかという利便的な問題も多少あるかとは思いますが、現在、大月高校の場合だと県立高校の一次を落ちた子どもが二次の方で大月高校を受けるというような現状の中で、県立高校が今、上野原、都留、谷村、桂がありますけれどこの中で100%、大月の今行っている大月高校の37%の生徒を全部受け入れてくれるかという問題が多少あると思うんです。というのは大月高校に入れなくて他県へ出るとか八王子へ行くなり甲府なり吉田の私学に行くとなると父兄の負担が大変増えてくると思うんです。その辺が一点。

あと行政の方に聞きたいんですが、大月ばかりではなくて都留・上野原からも生徒が来ているわけですが、たとえば大月高校がここで閉校になると言った時の状況は検討されているのか。それと都留、上野原方面の教育委員会と話し合いとかはされているのでしょうか。

事務局 確かに上野原から今年の1年生が47人、都留の方から30数名、概ね1クラスずつくらい入学しています。要はそういう子供の受け皿的な問題は市だけの問題ではなくて、都留市も上野原市も仮にこの高校が閉鎖という事になれば同じ悩みを抱えることになるという視点で考えまして両教育長に課題を投げかけてきました。課題を投げかけたというのは、もう一つは県立高校の整備再編が東部地区というくりの中で考えられているので、大月、都留、上野原が共同して力を合わせて県に要望なり何なりを出していかないと1市だけの考えだとどうも弱いなという気がしていますので、これからはそういった動きが必要になると。当然政治の力もお借りしなければいけないのかなと、こう言う風に今考えております。

議長 今質問のあった100%と言うのはちょっと無理だとは思いますが。

事務局 当然高等学校ということでございますから競争の原理が基本だと考えておりますので、100%入れるとなると義務教育化に移行しなければちょっと無理があるのかなと思います。

議長 いずれにしても県立の学校に受け入れる定員の枠というのは、その地域の中学校の卒業生の数に対してどの位という事で定員を決めていると思います。たとえば大月高校が無くなるという事になれば当然その分の定員については他の学校に振り分けたりするという配慮は当然やっていかないと、県の行政としてかなり批判をもらうというような形になると思います。

委員 今ほとんどの子供たちが高等学校の進学を目指しているわけなんですけれど、各学校の学力のレベルはきちりとあるわけです。都留高校だと5教科で350点、桂高校、上

野原高校だと280点、それから大月高校だと180点というの出されているんです。そのレベルに達していないといくら受け入れてくれと言ってもそれは無理を強いることになるので、これは今度は義務教育の中での学力向上をどういう風に目指していくかという問題になって来ると思います。ただ、子供たちの数に応じての定員を設定して行くと言う事は、県の義務としてやってくださると言う事であるならば、学力があっても入れないと言う事にはならないと思うんですよね。やっぱり、目の前の受験のことを考えますと、何でもかんでも高校にと皆さんおっしゃるけれど、受け入れる側の立場に立つ時に、やっぱりちゃんとした良い子を受け入れたいという学校としては本音としてあるわけですよ。ですからいくら定員が割れていてもリスクを抱えるような子は学校では入れませんね。そこを睨んだ時に受け皿としてちゃんと定員を確保してくれるという約束が取れるのであれば、それはそれで別に良いのではないかと思います。

議長 話をもう少し先に進めたいと思いますが、存続の問題についてご意見をいただきたいと思いますが。

委員 移転した場合にだいたい2億円位で出来るとなると、一見可能な範囲なのかなという気がするんですが、要するに子供の数が減っていく時に、今までのレベルの生徒を考えてこの学校を存続していくのか、全然違う大月高校として新しく出発するのか。昔は工業高校はほとんど定員が集まらなかったですね。進学を目指す一つの学校にして2、3年は定員割れをしたけれど、今は山梨県でもある程度の進学校となっています。山梨学院も特進クラスを作ることによって、ある程度の生徒が入っている。だから、大月高校として先ほど資料としては商業科みたいな形で出ているけれど、最初は定員が割れるかもしれないけれど、こういう生徒を目指して募集していくんだというビジョンみたいなものがあれば、そうすると集まりますよね。要するに2クラス位の数だったら、たとえば今だったら進学を目指している学生も多くいますんで、大学に入れるということになると、大学は今の段階では全員入学なんですね、極端な話をすると。ただ自分の行きたい学校を目指す子供たちが集まる学校にすると言う事になれば、80人位の生徒数は集まる可能性はあるわけですね。大月高校をどう言う形の高校にしたいかというビジョンがもしあって、あるのにここで財政の面でいきなり廃校にして行った方が良いじゃないかという意見じゃなくて、大月市としてはこういう学校を目指してやって行きたいと言うものがあれば存続も考えられるのかなという気が私はします。

議長 はい、分かりました。まさかここでそのビジョンを作るわけにはいかないでしょう。

委員 存続する場合にはある程度そういうビジョンを大月市で持っていて、廃校にするのか存続するのか、ただ、それだけの意見を聞いているのかもしれないけれども、もし存続するならばそういうビジョンを考えながら新しい存続に臨む道もあるだろうし、色々な面とかを考えて、難しいかなあという意見もあると思うんです。閉校に進んでしまうような気がするんで、万が一そうじゃなくて、残すんだったら何をしなければ残れないのかと言う事を考える必要もあるのかなという気がします。

委員 私も先生の話聞いて思ったんですよ。たとえば「是か否」の代わりに、もし存続

するのなら答申の内容の中に存続するのなら、たとえば看護科ならば看護科、看護師不足だから看護師を養成する専門の学校ですよという形のように、まったく変えてこういう形もありますよという答申の内容の方が私は良いような気がします。

委員 十何年前に大月高校の方で吉田の看護学校が無くなって、甲府まで行かなければならなかったと言う事で、我々としては当然中央病院のこともあって当然そういう話もした事がありました。しかし、そんなものは全然耳にも貸してくれなくてこう来たんですね、だから中央病院がこうなったのもそれもあるんです。その頃実際にそういうものを造っておいてくれれば活性化していたのかもしれない。時、既に遅いんです。実際今先生がおっしゃったように、十何年前に特進クラスを作って結果が出ていればそれは存続させなければ行けないと思うんです。山梨学院大学も今の結果が出るまでにはあれだけマラソンでお金を使い、何年もかけて山梨学院大学というものを地域に広めた上での努力を何十年もかけてやって来た。初代古屋学長の努力の結集だと思うんです。そのようにするには、やはり今の現状としては保てないのが本当の現状なのかなあという感じはしています。

委員 ですから、答申の内容の中に否ですよとやって、それから生き残るにはどういう形が良いですかと、もう遅いようですよけれども。何かそういう方策も入れていかないと、もう否ですよといきなり言って、否を考えるのは私たち執行部だと思うんです。こういう形で直接審議委員に責任を振るのではなくて、そういう方向性が良いんじゃないですかと、それじゃあ決断するのは執行部が決断して議決する。「是か否」ははっきりするのは良いことですけど、その辺をあまり委員さんに求めると酷かなあと。

委員 流れはこうだけれども、こういう理由でもし万が一存続出来るならば、今言ったみたいな「遅い早い」は別にしてこういう案も出たと。これがもし活性出来るなら可能であるうというような形であれば各委員さんもそれなりの意見があるのかなあと言うことです。

委員 私としては心情的には大月高校を存続させたい。それにはどうするかと言う事を皆さん方と話し合う訳なんですけれど、存続するにはまずい点が校舎の建て替え、これは前回私が言わせていただいた、不可能に近い金額が示されておりますのでこれは無理。大学の方が認証評価を受けまして、27年度までにはこれを分離しなければならない。こういうことははっきりしています。だから23,24年度迄にはこれの結論を出さなければならないと言う事は分かっている。これははっきりしている事だよ。私が思うのには事務局の方に宿題で出された、80人位でどうにか存続が出来ないか、と言う事を皆さんに提案したいというのが私の意見です。それはそんなに難しく考える必要は無いと思います。商業科だけでも今は十分だと思います。その後にも、商業科だけではなく、色々な道を探せば良いのかなあという思いがあります。現時点で思うのは、存続させるにはそこしかないのかなあ。

それともう一点、経費として1億8千万。これは今ある積立金で賄える。それで食堂はあってもなくても良いんだよね。

事務局 校舎に備える施設の基準には入っていないんです。ただ、こういうものを設置した方が宜しいと言う事です。

委員 あった方が良いんで、ダメと言うことは決まっていないでしょう。

事務局 商業科の場合は商業実践室等の特別教室が必要になり、今の富中の建物にはありませんので、そういう施設を造らなければならない問題もあります。

委員 私も同じ意見で、今回富中へ移転した場合の資料を頂いて、私は富中を出ているんですが、私の中3の時にこの校舎が出来まして、中はこの図のとおりよく分かります。毎年これでやって行っても毎年4千万円の不足金が出るという事と、移転した場合に1億8千万円というお金が係ると言うことでですけど、ここで話す内容ではないかもしれませんが、先般、笹子小学校が初狩小と合併するという話を聞きまして、耐震関係の前に合併しておりまして、笹子小学校を残した場合、耐震工事という話もあったと思うんですが、その辺に係るお金がもし富中に移転した時の工事のお金に充てられて、こういう動きが執れるのかどうか聞きたいなあと思ひまして。

事務局 今ご質問がありました笹子小学校ですね。笹子小学校と初狩小学校の適正配置をすると言う事で、今日委員の先生方もお二人いらっしゃいますけれど今月9月の議会の方に学校設置条例の廃止という条例を提案させていただきます。この適正配置につきまして、今、委員さんが申しましたように笹子小学校の学校施設、体育館、教室共に耐震不足と言う事で、昨年の6月に地震対策特別措置法という法律が出来まして、その場合IS値0.3未満の建物については早急に耐震化するようにという指示がございまして、これは平成23年までに行うようにという形のを、1年前倒して平成22年までにと言う指示がございました。教育委員会の方でその辺の所を協議いたしまして市長部局と相談する中で1年前倒しする形の中で笹子と初狩の適正配置をするという事で、来年の4月には適正配置をするという予定の中で進めておりますけれど、もともと笹子と初狩の場合につきましては、笹子小学校を耐震化するという計画はございませんので、この予算は考えておりません。笹子小と初狩小を適正配置して大月第一中学校の校舎を使ってと言う当初の計画でありましたから。それも大月東中学校と大月第一中学校の適正配置が若干遅れておりまして、こちらをしない限り大月第一中学校が空きませんから当分の間は初狩小学校の施設を使ってという形の中で考えておりますのでそちらの方の経費というものは一切考えておりません。

委員 この審議会では最終的な結論として、是なのか或いは否なのかと言う事をどちらかに決めて答申として出していくのか、両方答申として出すのかどちらですか。

委員 それは簡単で、「是か否か」ですから最初から採決してしまえば、それは何にも審議しなくていいわけでしょう。そんなわけにも行きませんから、どういう視点から色々論議をして、たとえば少子化だとか学校の中身だとか、それは財政問題もあるでしょう。そういう幾つかの視点を賛否両論たぶん出ると思います。そういうものをまとめ上げて答申をして行ったらと思います。

委員 それは分かりますよ。私が言いたいのは、否にした場合にどうして否にした方が良い

のかとか、或いは是にした場合にはどう言う理由で是にした方が良いと今思っていますか。

委員 そうですね、公立高校は大月に2つ必要ないとか、どっちが無くなるか分かりませんが。そう言う事だとか少子化問題と言う問題はもう少し長期的視点で眺めなきゃいけないとか、そう言う点が私が見た視点です。私の方がそう言う視点に立っていますので比較的否に近い視点を取り上げると言う感じになりますけどね。まあ、そう思っても賛成の人も存続すべきだという意見もありますからやはり考えなければいけないのかなあところは思っていますけれどね。押しつける場ではありませんからね。

議長 いずれにしても是の論理、否の論理両方をここで審議していただいて、それを行政にぶつけて行政判断でもってどっちを取るか決めてもらうという判断になるんじゃないかと思います。我々委員会が「否か是か」と言っても行政の方でどう考えるか行政の判断する材料をこの審議会で作って答申をする事がこの会議じゃあないかと思います。

是の場合にはこういう場合もあり得るんじゃないかと。否の場合については既に理由づけられていますが、もう少し具体的に出してもらえばなおはっきりするわけです。

委員 富浜中学校跡地を使って存続の道を探ろうという件ですが、1学年2クラス、3学年6クラスというのは高等学校としては適正配置という中ではどうなんでしょうか。

答申が出ているという事は4クラスが好ましいという裏付けがあるわけで、県が4クラスの方が望ましい好ましいという答申が出ている所なのに、これはただ単純な質問だと思ってください。6クラスだけでどうなんでしょうかねえと言うところです。

委員 残した場合、市に残しますよと言う場合に県では大月の事、生徒のことをまるで考えないですからね。それが心配なんです。

だけど県の方が考えるのは大月市で結論を廃止にしますからと言った場合には県の方では考えますけれどね。

その辺の所が多少でも残しておければと言う事になってしまうと、県の方では大月市はこういう考えだから市のことは自分たちでやるんだという事で定員については大月市の住民全ての事を考えたら学校配置とかクラス配置にしてもしてこなくなる。これがちょっと心配なんですけどね。

だから、はっきりと意見として県の方に出して行った方が大月市にとって有益だと思います。

委員 商業科として2クラスにして残すというお考えのようですけれど、たとえばこのまま2クラスで残した場合にずうっと募集定員がお集まりになるとお考えですか。

委員 少子化の方の資料を見ますとちょうど27年頃に割合が減るんですよね。その辺は先生に努力していただければ、80人位なんとかなるんじゃないかなあと言う思いだけです。はっきり分かっていたら答えは簡単に出来る訳であってね。

委員 先ほどちょっと話の中で、とりあえず答申の中で残す方向に考えた時に暫定的にやっ行って最終的に次にもう一度やる、だったら考えようと言う事であると、どの位のスパンになるか分からないですけど、5年になるか10年かという時にそういうスパンで

考える時にある程度先の見通しを持って、ここで残すんだったらこういう学校にするとたぶん残るだろうという見通しのあるビジョンみたいなものを持ちながら両方向で行くのか、さもなければここで廃止にするのかと言う事です。ある程度ビジョンがあり、残すことが出来るのなら残した方が良いと思います。その辺の見通しはどうかと言う事をお聞きしたい。

委員 ビジョンはございません。

委員 2 クラスでやって行ってその 10 年後とかに経営が成り立って行くのかどうかと言う事です。やはりいくら赤字でもそれが有意義でプラスになる赤字だったらいくら赤字になっても良いんです。しかしそのマイナスが本当に赤字そのものならばやはり考えて行かなければいけない。というのは、今の場合は全国どこもそうなんですけれども、そういうもんじゃあないかと思うんです。これはちょっと厳しい点なのか分からないですけど、私たちは小さい頃から大月市に育って見ていると、大月短期大学附属高校があるから高校は行けるよという安易な考え方がすごくあって存続してきた。これは大変失礼な言い方ですが、あるんですよ。それが果たして良いのか悪いのかと言う事もあるし、やはり高校教育ですから競争もあり、何もありと言う事で来たものであると思うんですよ。だからこれからの将来の子ども達を考えるならば、確かに大月短期大学附属高等学校があるから安心だよという安心感を持つ事も必要なかもしれませんが、義務教育の中でももう少し上を見てやるというのも教育なのかなというように私自身は思っています。

委員 まだ答えは出ていないんですけど、今、色々聞いている中で、存続と言う事を考えた時には、大月高校の特色を大月市の将来に向けて何か役立つものがあるというプラスになる事を考えながら残して行かないと意味が無いのかなあと。それを今市とすればこの間も質問したとおり、一番に考えられるのは中央病院、そして小中学校の適正配置。それを最優先するという形の中で、やはり中途半端に残すのは良くないのかなあと。残すんであれば市のビジョンとして大月の教育を考えて将来こういう子どもを育てていきたい。大月高校をこういう位置づけにしたいと言う市の方針がもしあるとすれば残す意味はあると思います。何か今までの話の中ではそういうものは市の中には優先されていないという状況の中で考えますと、県の再編成という所に併せて廃校を考えた方が良いのではないかと考えています。

委員 「是か否か」というポイントの耐震化が 27 年までにしなければいけない。少子化の問題、財政の慢性的な財政難の問題と大きく 3 つに別れています。27 年度までに耐震化というのは、富浜中学校へ移転した場合できれいにクリアーされると思うんです。だけど少子化の問題と言うのは永遠に右肩下がりなんです。何か少子化対策があって上向きになるかもしれませんが、東部学区の進学者数の推移を見ると 35 年度には 474 人になる見込みですが、35 年以降も減っていくと思うんです。その問題をクリアーするにはどうしても外から呼ばなければならない。外から呼ぶ場合には魅力ある高校にしなければ外からは来ない。ですから少子化の問題と耐震化の問題はまったく別の視点から

見る必要があって、耐震化はクリアー、少子化は外から呼べる何かがあるのかどうかと言う事がある。慢性的な財政難というのは80人にしたら今現在6千万円の赤字が4千万円。2千万円減っているわけですが、これもずっと永遠に基準財政需要額が1億2千万円で行くのかどうかとか地方交付税がこの額、交付されるのかどうかと言う事は、政権も変わった事だし分からない。これも違ったポイントからになって来ます。一個一個潰して行けたら道が見つかるかなあと言う気がするんですけど。今のところ一個は潰れたなと、後の二つは非常に難しいなと。

委員 大変難しいですね。消極的な考えで言うと存続なんです。それはどういう事かと言うと中学校の立場からすると、いくら学力の問題があると言いましても定員がありますので定員に達すれば切られますよね。今、学区の方は全県一区ですから選ぶのは自由なんです。子ども達が選ぶのは自由なんですけれど、高校も選ぶのは自由なんです。選んで良いですよと言うけれど学校も選ぶんです。そうすると必ずそこに入れない子ども達が出てきます。受け皿的な高校が必要になる。例えば無くなった場合、どこに行くかと言うと、吉田の場合には富士学園があり救ってくれます。甲府の方にもそういう学校はありますけれど、ただこの所は中途半端なんです。高校が無いんです。昔は日大明誠がそういう役割をしてくれていまして、ある部分を入れてくださったんですが、やはり存続がありますよね。経営からすれば当然入学人数の関係で。そうなった場合にその子どもは何処へ行くかと言う事になると、行けない子は都留高の定時制に今まで行けた子がはじき出されてしまう。つまり学力的に点数を取れば、それを取れない子ども達は選択肢が常に狭められてしまう。そう言う事で言うと受け皿的な高校、高校としては凄く大変でしょうけれど、それは先ほどから何人もの委員の先生がおっしゃっている通りです。中学校の立場からすればあっていただいたら良いなというのが消極的な意見です。ただ市として市立の高校として存続させているのであれば、その消極的な考えであっては、やはり先細りになってしまうというのを感じております。大変どっち付かずの意見で、自分の中でどっちというのは大変難しい。個人として、それから中学校を任されている者として両方共の葛藤の中に自分が居るとというのが率直な意見です。

委員 私も同じ考えですが、別の視点でということで、私は吉田の方に長く勤務していたんですが、その中で出た意見が吉田の高校を出ても吉田の地域に皆住まないんですね。皆出ちゃうと。だから町を活性化する為にはここに残る子どもを高校で育成してくれなければダメだと言う話がありました。特色、特色と言いますが学力ばかり高い生徒を作っても結局出て行って、何の貢献もしないんです。それに税金を使っている訳ですよ。これを見たら毎年ね。そうであれば大月市の為になる子ども達を育てるみたいな視点が必要じゃあないかというふうに思います。もう一点はそういう学校にする為にはものすごいお金をかけなければダメだと思うんです。教員の確保自体が今、半分は期間採用ですよ。そう言う意味では、その覚悟があってそう言う事をするかという所に存続するのかわからないかという事が係っていると思います。これがもし立ち消えになった時に心配なのが、県の方で突っ慳貪を食らわすと。もうそういうふうに結論を出したじゃあ

ないかと。その点がまあ大月市で何とかしろとは思いませんけれど、そういう可能性があるとするれば必然的に選択の余地は決まってくるのかなと思います。子ども達が目の前にいて、どうしても入れてやりたい高校がないというかどこか見つけなければならぬ時に、非常に大月高校は助かります。しかし、こういう色々な資料を出されますとその辺の気持ちも市のことを考えると、どうかなあという事も別の立場としてはあります。どっち付かずの意見なんです。

議長 他に何かご意見ございますか。具体的にいよいよ答申の中身を検討して行かなければいけないですけど。

委員 事務局に聞きますけれど、ここで民主党政権になって公立高校の無料化というのを打ち出しております。そんな中で国の施策だから全額国で見らるうけど、その辺はどう思いますか。たとえば授業料とか地方交付税とかその辺の感触はどうですか。

事務局 無料化という抽象的な表現で何とも言えませんが、授業料の無料化なんですね。授業料と言うものはそもそも保護者の方が払っていたもので、市の財政負担はそのまま行くとまったく同じという事なんです。もう一つは交付税制度がどう変わるかと言う事ですが、これは変わらないと思うんです。もし変わるとしたら、国の財政状況を考えると地方の負担が増える。これだけは十分予測できるというふうに私もは考えております。

議長 存続といった話も出ている訳ですけども、廃止にするとした場合にはすぐにも色々な資料が出せるわけですが。どうも心情的にはそうはいかないと思いますので、一応先ほどの富中の移転問題ですね。一つは解決したと言う事ですけど、他の二つを解決する案が何かございますか。

事務局 先ほどの富中への移転というのは一つの考え方として捕らえさせて頂いているわけでごさいます、仮にこのまま行った場合、クリアーの難しい問題がございます。と言うのは時期の問題です。基本的には大月東小学校をどうするかと言うことで、これは市の財政の問題に係っている事ですが、それが計画通り行くか行かないか、富浜中学校は今、教育委員会の計画では最終年度という計画なんです。と言う事に成りますと 28 年の 4 月になると言う、こういうスタンスで考えております。そうするといわゆる大月高校の耐震化の問題がクリアー出来ない。こういう事が引っかかっています。その辺の調整も必要かなと思っております。

委員 という事は 28 年度に耐震化できない場合には罰則でもありますか。と言うのは大月市は耐震化を進めてきた中、50%を割るような形で進んできた。これは成功した、それによって国からのこういう補助金がきた。これはたいしたもんだと思う。他はどんどん進めていった中で大月市はやらなかった。だけど国からの補助金をまんまとせしめたという事で、それは市長の良い計算だったと思う。最終的な遅れは確かにあつたが、それが 28 年までに 1 年ずれ込んだ事によって国からの罰則があるのか無いのか。

事務局 非常に難しい問題でして、基本的に国県で言っているのはペナルティーがあると言う事は言っておりません。と言うのは以降の補助金について思うような補助金の交付は出来ませんよと言う話はございます。もう一点は社会的な制裁ですね。大月市は 27 年度

までにやらなければ成らない事が出来ていない。と言う事がいわゆる社会的制裁を受ける事だと思います。

委員 それは新聞でも叩かれたように大月市は 50%を下回るような現状で今進んで来ている。だけど今考えれば、それも良かったのかなど。結果論だよ、議員からすれば。ただ、分離の問題があるから、これをどうクリアーするかなど。それは訳を言って、もう1年、29年の4月になりますよと言う事で進められるのかなという思いがあるわけです。

議長 どうですか、他に何か。存続するために先ほど何かこういった点で財政も困難である。分離の問題もこうだよと言う課題が出ている訳ですけども、財政の問題はこれはどうにもならないと思います。どう考えても毎年、償却資産がとにかく年々固定資産税が減っていくわけで、それだけでも相当な金額になると言うことで、財政収入はどんどん少なくなってくる。とすれば市民税を上げると言う事はいかないですかねえ。ある程度そういう事も考えて。或いは、これだけの不足が出ているならば授業料を上げるとか、寄付金を募るとかですね。市民一人当たりいくらずつ出して貰うとか、何かこういう方法を取らなければ財政的には解決出来ないと思うんです。

委員 市民対話の初狩地区の内容で授業料は上げないでと言っている父兄がおりました。

委員 それもこれも幾ら予算を取ればいいんだと言う見通し。来年度幾ら予算を取れば良い、来年度はどうなんだ、再来年度はどうなんだと、向こう10年間位のシミュレーションをね。存続したら10年後どういう予算状況になるか、市の財政全部を含めて、廃止したらどういうふうになるのかと言う事を出さないと判断材料が少なすぎます。財政の面ではそれは判断材料として絶対必要ですね。

委員 それは幾つもの委員会があるんで、この委員会ばかりでないんで、たとえば保険料にしても介護保険にしても介護訴訟の委員会もあるわけですよ。その中でもっと増やさなければいけない。そく部分、増やす部分も調整しているわけですから、ここだけを入れて市の財政が存続するのかわからないかと言う事は出来ませんよ。だからこそ、そくものはそぎたいと言うのが実際の考えに成って来ているから。

委員 それは良く分かるけれども、毎年6千万の赤字が出る。その6千万の赤字が多いのか少ないのか。やれるのかぎりぎりなのか。

委員 赤ちゃんを含めて一人1万3千円ずつ市民が出せば良いんですよ。その代わり私が言ったのは、この委員会ばかりではなくて他に十いくつかの委員会があって、そこで皆負担金が決まっているわけです。それを足したら何十万になるわけですよ。それで今大月市民が抱えている借金、赤字が赤ちゃんを含めて一人120万円。

委員 それは、大月高校の場合は6千万で、他の団体の場合は幾らのマイナスが出ているのかと、そういう意味でも財政的な資料がやはり欲しいですよ。

委員 それは分かりませんよ。その保険料をどうやって上げて行かなければ成らないとか、動きがありますから分からないんです。増えて行く事は間違いないんです。高齢者が増えて、医療保険、国民健康保険と、大月市は最低に抑えているから苦しいと言うのもあ

る。少し上げさせていただきましたけれど、本当はもっと上げなければいけない。そういうものを今まで抑えてきた故に苦しいんだけど、一度に上げるかと言うと市民の批判を浴びるから一度に上げられないと言う事があって、どこかでやっぱりある程度勇氣ある決断をする委員会がないと、これはもうどうにもならないですね。

委員 少なくとも全体の市の財政の細かい所が無理だったら、来年度の予算というのをどういように構想を立てているか、その位が見えないと本当に判断が下せない。

事務局 来年度予算は実は議員の先生方も様子はわかっていると思いますが、大変財政状況が厳しいと言う形の中で、例年は11月、12月に新年度の予算編成に入っていくんですが、今年はまだ入っております。それで大枠はもう決まっております。収入に見合った支出を考えて行こうと。要するに税収とかそういうものを見込んで、入れた金額に見合った支出で考えていこうと言う形の中で、今年は市の一般会計の予算が確か120億だったんですが、これを各課で若干減らしていると思いますけれど、今現在8億ほど予算が足りないと言う事で再度予算編成をやり直しております。相当厳しい状況の中で予算が組まれていると。私たち教育委員会の方でも、ある意味で政策的なものも切らないと予算が組めないというような状況の中で、去年よりも1割位減らして予算を作ったんですが、学校教育だけで申しましてそれから更に6千万切りなさいと。教育委員会全体では大月高校を含めて1億円近い金額を切りなさいと言う趣旨で来ていますから相当厳しい状況の中で予算が組まれてくる状況でございます。それからもう一つ、話がずれますけれど、大月高校の経費の他に学校の適正配置の話がありました。これから大月東中学校、或いは大月東小学校、それから後、耐震が不足している学校の耐震化をして行く形の中で、平成27年度までに、それに係る経費に約40億円位の経費がどうしても係ると言う状況があります。

委員 財政の話は逆に言うと大月高校を廃止した場合に地方交付税は減るわけですか、減りませんか。それが3億か2億が知りませんが、もしその3億の中で運営が出来るのならば存続しなければ損ですよ。具体的に分からないんですよ、そのボーダーラインが。どこまで経費を削減すればメリットが出るのか。単純に考えると今6千万の赤字がある。じゃあ6千万の経費を削減すれば存続させた方がメリットが出るのかと言う所が聞きたいと言う事です。

事務局 地方交付税が今現在3億1千5百万円でカウントされておりますが、国の財政事情によって係数を変えますから、時にはそれが3億円になる、3億5千万になる。極端に言うところこういう数字なんですね。ですから、大月高校を運営するには標準的に3億1千5百万あれば運営できますよと国が言っている事であって、実際運営していけばそれに6千万円足さなければ運営出来ないという状況にあるのは確かです。しかも教員の半数は期間採用で給与ベースが若干低い給与ベースです。これをオールマイティーで採用していくと6千万が8千万になり1億になると。こういう事も予想されますね。確かに無くなれば3億1千5百万と言うペースは落ちます。これは確かです。だけど残しておけば6千万と耐震化とかそういうお金は出て行きますよという計算になると思います。

委員 これはちょっと違う話ですけど、損得と言うのは色々あるわけですよね。たとえば医療で言わせていただくと、中央病院さんが僻地巡回医療として年間3百何万と言う補助金を貰っているんだけど、それに掛かっているお金と言うのはそれ以上掛かっている為に先生が外来を離れ、外来に穴が開くという色々なマイナス面とかが一杯出てきているんですよ。私はそれはやめた方がいいんじゃないかと言ってもいつまでもやっているんですがね。そういう事もあるわけですよね。だから必ずしも補助金があるからその補助金を使い切らなければ損だよとか、貰えるから得だよとか言う話は実際お金の面だけではなくて、時間の面の問題とか色々な意味でマイナス面が非常に多いでしょう。私が言うのはお金のことを突っついて、もうこれ以上どうのこうのと言っても私はしょうがないと思うんです。じゃあ中央病院が年間5億の赤字を出しているのは中央病院をやめれば簡単にできるわけですよ。簡単ですよ、いとも簡単ですよ。だけどそれ以前に何をどうするのかと言う事ですよ。社会保障なのか、教育も大事なんだけど今大月市として現状何が必要なのか。何かと言う事を考えればお金だけで言えるものでもないし、マイナスが市の為にプラスになるものもあるし、マイナスがもっとマイナスになるものもあると言う事を考えて行かないと結論は出ないんじゃないかと思うんです。だから小さな数字を突っつくのは私は好きじゃないんです。これは行政さんが出して来たもので我々が突っついたって分かるものじゃないんです。市だって出せる資料と出せない資料はあるわけですから、数字的資料は私はこれで十分だと思います。

議長 時間はもう過ぎていますが、ここでどうしても発言したいと言う方はいらっしゃいますか。

委員 地元の高校に行っても結局は出て行くという事が大月にとってすごく重要なポイントと言うか、少子化は止められないですけど今後の大月の人口は減り続けていくののではなくて増やして行かなければならない。子供も増やして行かなければならないと言う中で教育と言うのはすごく重要な部分だと思うんです。大月に残ってくれる人材を育てると言う所はすごく重要なポイントで、確かに財政の問題とか耐震化の問題とか良く分かるんですが、それは分かっているけれどもそれはやはりやらなきゃいけないという議論とかは必要だと思うんですよね。その中で大月高校というのが必要なのか必要じゃないのか。小中学校でも同じだと思うんですけど、耐震化とか少子化とかあると思うんですけど、大月に残ってくれる人を育てる教育の場と言うものを大月市がこれからどう考えていくのかと言う事。市の方でもそういう考えは絶対あると思うんですよね。その辺をちょっと話していただきたい。

委員 私も以前に教育長に対し一般質問で質問させていただきました。都留高校を出る生徒はだいたい遠くの方の学校に行き、そのまま向こうに就職してしまう。大月高校の生徒は確かに地元に残って地元の企業に勤めているんだよね。上野原に勤める、都留に勤める。かなりそういう生徒は知っているからね。私は大月高校のあり方と言うのは現状のままだでも大月市に十分貢献しているんじゃないかなと思います。

委員 先生に反論するわけではないですが、20年も30年も東京に通っているんだから、私

の息子も今東京へ通っている。うちの近所の人も東京に通っている。都留高の卒業生が今わしらのように居ると言う事は、都留高の生徒もかなり残っているんですよ。一生懸命働いて税金を払っているんですよ。ということです。

議 長 いずれにしても高校を存続する理由としてはこういう事だと思っんですがね。時間が来ているんですけど、どうですか。事務局どうですか、この辺で閉じたいと思いますが。

事務局 どの位卒業生が残っているのか次回に資料を出させていただきます。

議 長 これで閉じたいと思いますがよろしいですか。長時間ありがとうございました。これで閉じたいと思います。

次回日程を10月8日(木)午後6時から市民会館4階会議室で行う事を確認し終了した。

以 上